



東野便り

HIGASHINO DAYORI

学校法人
盈進学園 東野高等学校
総務部

東野高等学校 校長 平井 廣治

2 学期を始めるにあたって

謹啓

初秋の候、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。今年の夏は、台風の接近や集中豪雨、地震の発生などの自然災害による影響がいつも以上に目立つ年だったように思います。学校といたしましても、防災や減災といった観点を意識し、安心・安全な環境づくりをより一層進めていきたいと存じます。

さて、2 学期を始めるにあたって、始業式では以下のような話をいたしました。

1 学期の終業式では、夏休みを迎えるにあたって、「40 日間という期間は、自分自身に磨きをかけることも、また逆に自分自身を鈍らせてしまうこともできてしまう」という話をしましたが、皆さんにとって今年の夏はどのような期間になったでしょうか？私は以前に3年生のクラス担任をしていた際、9月に発行した学級通信で次のように書いたことがあります。

収穫の「秋」が来ました。受験生にとって、「秋」とは「夏」の間の努力で育てた実をしっかりと刈り取る時期です。当然、努力をたくさん積み重ねた者の木にはたくさんの実がなり、努力しなかった者の木にはわずかな実しかないでしょう。ただ、気を付けなければならないのは、いくら実がなっているのに刈り取らなければ、いずれその実は腐ってしまうということです。この「秋」にやるべきことをやらなければ、「夏」の努力は無駄になってしまいます。「秋」はいずれ過ぎ去り、その後には厳しい「冬」が来ます。何ら準備もせずに「冬」を迎えた者は、その寒さにたちまち凍えて動けなくなるでしょう。ですが、「夏」に努力し、「秋」にしっかりと蓄えをつけた者ならば、必ずや「冬」を乗り越えることができるはずです。ここまで共に努力してきた皆で「冬」を乗り越え、喜びの「春」を迎えましょう。

仏教に由来する言葉に、因果応報というものがあります。自分のした良い行いも悪い行いも、その行いに応じた結果や報いとなって必ず自分に返ってくる、という意味です。過ぎ去った夏は戻ることはありません。この夏の取り組みが、皆さんにとって多くの実りをもたらすものだったことを信じます。そして、その取り組みが夏だけに終わらず、この後の学校生活にプラスの影響を与えるものであることを願っています。

さて、今日から2学期のスタートです。「東野高校の2学期は芸術 WEEK から始まる」と言っても過言ではありません。合唱祭で心をつなげ、芸術鑑賞祭で感性を磨き、そして盂蘭盆会で大いに盛り上がる。1年生の皆さんは、初めての芸術 WEEK になりますが、初めてだからこそ思い切った活躍を期待しています。2年生の皆さんは、昨年度の経験を良い意味で活かして、確かな成長を感じさせる活躍を期待しています。3年生の皆さんにとっては、いよいよ

学校法人 東野高等学校

〒358-8558 埼玉県入間市二本木112-1
Phone 04-2934-5292(代表) Fax 04-2934-4665

EISHIN GAKUEN HIGASHINO HIGH SCHOOL

112-1 Nihongi, Iruma City, Saitama Prefecture 358-8558 JAPAN
Phone +81-4-2934-5292 Fax +81-4-2934-4665



東野便り

HIGASHINO DAYORI

学校法人 東野高等学校
盈進学園 総務部

高校生活最後の大きな学校行事となりますが、最高学年だからこそできる活躍を期待しています。なお、盈華祭には毎年たくさんの方々が来場されます。皆さん自身が存分に楽しみながら、来場された方々にも満足していただける文化祭をつくり上げてもらいたいと思います。

ところで、「9月1日は何の日か？」と聞かれたら、皆さんはどう答えるでしょうか？最も多いのは、1923年の9月1日に発生し、10万人以上の死者・行方不明者が出た関東大震災に由来する「防災の日」という答えかも知れません。1学期に避難訓練をした際にも話しましたが、人間の力では災害の発生を防ぐことは困難です。しかし、事前にさまざまな備えをすることで、その被害を減らすことはできます。夏休み中には、熊本県で大きな地震が発生し、甚大な被害が発生しました。また、千葉県での線状降水帯の発生にともなう豪雨被害も、多くの人々の生活に大きな影響を与えました。是非、この9月1日という日に、改めて「防災」について、そして「命の大切さ」について考えてみてもらいたいと思います。

ただ、「9月1日は何の日か？」という問いの答えは、「防災の日」だけではありません。たとえば、9月1日は1935年に第1回の芥川賞・直木賞が発表された日でもあります。芥川賞と直木賞は、日本において最も権威と名誉がある二大文学賞であり、どちらも年に2回発表されるものです。芥川賞は、雑誌に発表された新進作家による純文学の中・短編作品の中から選ばれます。直木賞は、新進・中堅作家によるエンターテインメント作品の単行本（長編小説もしくは短編集）が対象です。どちらも非常に注目度が高く、ニュースでも必ず取り上げられるものですが、2026年度の上半期は、小砂川チトさんの『ゾンビ回収婦』が芥川賞を、朝倉かすみさんの『けんぐわい』が直木賞をそれぞれ受賞しました。秋は、古来より落ち着いて本を読むのに適した季節であるとされます。読書には、知識や教養が身に付くこと、想像力が豊かになること、ストレスが低下することなどのメリットがあるとされます。普段から本を読む習慣がある人も、そうでない人も、この秋に何か一冊でも本を読んでみることをお勧めします。

最後に、2学期は年度の中では中盤、つまり折り返しも含む大切な要の時期となります。1学期の反省を活かしながら、「知識は第一の宝、品行は最高の美、忍耐は無上の力」という東野高校の建学の精神を意識し、互いを「思いやる心」を大切にしながら充実した日々を送ってください。

夏休み期間中に予定していた教室プロジェクター更新工事、総合グラウンド・人工芝の全面張替、校内のアスファルト舗装などにつきましては、滞りなく完了することができました。なお、教育環境整備の実施にあたって、多くの方々からご寄附をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。保護者の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育活動に変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

謹白